

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

## 1 教育目標（目指す児童像含む）

### (1) 基本目標

「人間尊重の精神」を基盤に、激しい変化が予想される21世紀社会の担い手として、「心身共に健康で、主体的に考え表現でき、粘り強くがんばりぬき、自らの向上とよりよい社会の発展を目指し、たくましく生きる人間」の育成を図る。

### (2) 具体目標（目指す児童像）

- ・ 進んで学びよく考える子ども（学びの主体性，知識・技能，思考・判断・表現）
- ・ 思いやりがあり心豊かな子ども（生命尊重，豊かな心情）
- ・ 元気でがんばる子ども（心身の健康，たくましさ）

《 児童の合言葉 「かしこく なかよく たくましく」 》

## 2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

（目指す学校像） 活気のある 学び合う 保護者・地域と共に歩む

（目指す教職員像） 教育愛のある 子供と共に歩む 互いに高め合う

学校は共に学ぶ場である。これからの社会では、変化を前向きに受け止め、多様な人々と協働しながら価値を創造したり、持続可能な社会の創り手として社会の形成に参画したりすることが重要となり、自分から進んで他者と関わり、異なる考えから新たな発想を生み出すような創造的な学びが求められている。そのためには、安全な学校生活が送れるように整備された、ゆとりと潤いのある環境のもとで、児童が学び合い、高め合うことができるようにしたい。その結果、児童一人一人の中に自己実現の喜びや自己肯定感などが育まれ、児童の笑顔を見ることができると期待する。また、児童だけが共に学び合うだけでなく、その成長を支える教職員も保護者も共に学び育ち合う場としての学校でありたい。共に学び合い、成長していく場としての学校づくりが重要である。

この基本理念を達成するためには、教職員一人一人が教育公務員としての高い使命感のもと、組織の一員としての自覚を持ち、互いに切磋琢磨し、学校教育目標の達成に向けて一致協力して諸活動に取り組む姿勢が望まれる。また、積極的な情報発信に基づく深い共通理解のもと、保護者や地域との連携を一層推進し、地域に根ざした特色ある教育活動を展開することが求められている。さらには、本市「小中一貫教育」の基本理念を踏まえて、地域学校園間での連携を中核とした異校種間交流の推進も重要である。

学校経営の理念「共に学び合う学校づくり」を軸とし、次項目のような経営方針を設定し、それらを具体化するために「確かな学力の向上」、「豊かな心の育成」、「健やかな体の育成」、「好ましい生活態度の涵養」、「保護者・地域との連携」、「教職員の資質・能力の向上」に取り組み、施設の安全管理・予算の適切な運用に基づきながら教育目標の具現化を目指すことにする。

## 3 学校経営の方針（中期的視点）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 児童及び地域の実態を踏まえ、知・徳・体の調和を図りながら、社会に開かれた教育課程を編成して資質・能力を育み、教育目標の実現に努める。
- (2) 教職員の共通理解のもと、児童がよさや自主性を発揮したり協働したりできる学校づくりに努める。
- (3) 職員が日々の研究と修養に努めることを推進するとともに、同僚性と自律性を基盤にした職場づくりに努める。
- (4) ○地域学校園内の小中学校及び地域との連携を深め、義務教育9年間を見とおした系統的・継続的な指導の充実に努める。
- (5) 地域とともにある学校づくりを推進し、家庭・地域・関係機関との連携協力体制の強化に努める。
- (6) 学校教育目標達成のために、校内業務の適正化(明確化や簡略化等)を図り、教職員の健康安全を大切にし、指導の質的向上に配慮しつつ持続可能な学校体制づくりに努める。

【豊郷地域学校園教育ビジョン】

豊かな郷の生き生きとした子供の育成

## 4 教育課程編成の方針

- (1) 日本国憲法，教育基本法，学校教育法及び同施行規則，小学校学習指導要領，教育振興基本計画，栃木県・宇都宮市教育委員会の方針(重点等を含む)等の示すところに従うとともに，本校の教育目標達成のための経営方針，本年度の本校の重点目標等を十分踏まえて編成する。
- (2) 児童の発達段階や各教科領域の特性を踏まえ，全教育活動をとおして「心身ともに健康で，主体的に考え表現でき，粘り強く頑張りぬき，自らの向上とよりよい社会の発展を目指し，たくましく生きる人間」の育成を目指した教育課程を編成する。
- (3) 社会の変化に主体的に対応できる能力の育成や創造力の伸長を重視し，自ら学び，自ら考え，主体的に判断，行動し，よりよく問題解決する資質や能力を育てる教育課程を編成する。
- (4) 本校創立以来150年の歴史と伝統を踏まえ，学校・地域の特色，児童の実態などを考慮し，創意工夫された教育活動を展開することによって，人間性豊かな児童の育成を目指す。
- (5) 「地域から学ぶ学校」をテーマとして，特色ある学校づくりに取り組み，地域人材や地域素材の積極的な活用による体験活動を推進する。
- (6) 基礎・基本の定着と本校の特色を生かした教育の実施に向け，学習指導法の工夫・改善を図る。

- (7) 児童のよさを多面的に見取ったり、教師のよさや専門性をさらに生かしたりするために、全学年において可能な限り教科担任制を行ったり複数の教員で指導に当たったりする。
- (8) 「これからの時代に求められる資質能力を身に付ける」という視点から、教育活動全般を見直しその改善に努める。また、現代的な諸課題に向き合い、解決を図ろうとする学習活動を充実させる。

## 5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- (1) 学校運営
- ・ 学校経営のビジョンを教職員で共通理解し、課題に対して協働して取り組む体制づくりを進める。
  - 学校園の教育活動における小中一貫教育の取組を推進する。
- (2) 学習指導
- ・ 主体的に学び合い、伝え合う児童の育成を目指し、自分の考えを明確にして、伝えたいことを書いたり話したりして伝える力の向上と主体的な学びを支える基礎的・基本的な事項の確かな習得を図る。
  - 分かる授業の実践や学習態度の育成、学習習慣の定着などによる学力向上を図る。
- (3) 児童生徒指導
- ・ 自ら考え判断し、自他を大切にしながら望ましい人間関係を築く児童を育成する。
  - ・ 豊かな心（感謝の心を中心に）を育む。
  - ・ 規範意識、仲間意識の高揚を図る。
  - すべての教育活動を通して豊かな心と社会性の育成を図る。
- (4) 健康（体力・保健・食・安全）
- ・ 生涯にわたって心身ともに健康で安全な生活を送るための資質や能力を育成する。
  - 健康や体力への意識を高め、健やかな心と社会性の育成を図る。

## 6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通、地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

| 第2次学都<br>宮市学校教育<br>推進計画<br>後期計画基<br>本施策 | 評価項目                                                                                                       | 主な具体的な取組                                                                                                                                                                                                              | 方向性 | 評価                                                                                                                                                                     |
|-----------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1-（1）<br>確かな学力<br>を育む教育<br>の推進          | <b>A1</b> 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。<br><br><b>【数値指標】</b><br>全体アンケート肯定的割合<br>⇒児童 85%以上 | ① 問題意識の醸成を図ったり、授業のめあてを確認・提示したりして、児童が進んで学習に取り組めるように工夫する。<br>② 1人1台端末や図書資料等を有効に活用して、児童一人一人が必要な情報を取捨選択しながら考え、表現する活動を充実させる。<br>③ 個人の学びを集団で練り上げる学び合いの場面では、考えの共通点や相違点に気付けるような追及活動を設定したり話し合いを深めるための視点を提示したりして、対話的で深い学びを実践する。 | B   | <b>【達成状況】</b><br>児童の肯定的回答率 92.8%<br>数値指標を7.8ポイント上回った。<br><br><b>【次年度の方針】</b><br>・今後も、学び方の具体的な方策を示したり、安心して自分の考えを表現できるような工夫をしたりするなど、児童が主体的に学び合う環境づくりを行うことで、対話的な学びを進めていく。 |
| 1-（2）<br>豊かな心を<br>育む教育の<br>推進           | <b>A2</b> 児童は、思いやりの心をもっている。<br><br><b>【数値指標】</b><br>全体アンケート肯定的割合<br>⇒児童 85%以上                              | ① 自分の考えをもつとともに相手の考えや思いを尊重し、相互に共有し、高め合える関係づくりに努める。<br>② 道徳、学級活動、帰りの会などを通して、互いのよさを認め合う心を育てる。<br>③ 異学年間のふれあいの充実を図るために、学校行事・児童会・とよリンピック等の活動を工夫する。                                                                         | B   | <b>【達成状況】</b><br>児童の肯定的回答率 90.7%<br>数値指標を5.7ポイント上回った。<br><br><b>【次年度の方針】</b><br>・今後も継続し、学校全体で互いに支え合い、励まし合える雰囲気づくりに努め、思いやりの心を育てていく。                                     |

|                                         |                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|-----------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                         | <p>A 3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】<br/>全体アンケート肯定的割合<br/>⇒児童 85%以上</p>        | <p>① 教科学習や特別活動等の様々な場面で、児童一人一人にめあてをもたせ、指導し、それを評価させたり称賛しあったりさせることで、最後までがんばる心を育てる。</p> <p>② 道徳科の授業などにおいて、自分のよさや適性、将来の夢や目標について考えさせる。また、それに向かって努力することの大切さや尊さについて気付かせる。</p>                                                                               | <p>【達成状況】<br/>児童の肯定的回答率 89.9%<br/>数値指標を 4.9 ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】<br/>・今後も学期ごとにめあてを立てるとともに、定期的に振り返り、達成するためには何が必要なのかを考えたり、目標に向かって粘り強く取り組んでいる児童を称賛したりして引き続き指導していく。</p>                                                                                                                                                         |
| 1-(3)<br>健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進         | <p>A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】<br/>全体アンケート肯定的割合<br/>⇒児童 85%以上</p>                | <p>① 地域学校園の食育推進と、家庭との連携協力により、地域の食材への関心や栄養に関する知識を深め、食に対する意識を高める。</p> <p>② 豊央ランナー、各種検定、豊央サーキット等の実施により、体力の向上を図る。</p> <p>③ 交通安全教室、避難訓練、引渡し訓練、自転車免許事業等を通して、正しい判断力と危機回避能力を育成する。</p> <p>③ 児童が、健康・安全に関する正しい知識を習得し生活に結び付けることができるよう、児童の実態や地域の状況に応じた指導を行う。</p> | <p>【達成状況】<br/>児童の肯定的回答率 93.0%<br/>数値指標を 8.0 ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】<br/>・地域学校園の食育推進と、家庭との連携協力により、地域の食材への関心や栄養に関する知識を深め、食に対する意識を高める。<br/>・「豊央ランナー」や各種検定の実施、「豊央サーキット」の実施などにより、体力の向上を図る。<br/>・交通安全教室、避難訓練を通して、正しい判断力と危機回避能力を育成する。<br/>・児童が、感染症対策をはじめとする様々な健康・安全に関する正しい知識を習得し、それを生活に結び付けることができるよう、児童の実態や地域の状況に応じて、迅速な対応・指導を行う。</p> |
| 1-(4)<br>将来への希望と協働する力を育む教育の推進           | <p>A 5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。</p> <p>【数値指標】<br/>全体アンケート肯定的割合<br/>⇒児童 80%以上</p> | <p>① 一人一人に応じた支援を行ったり、活躍の場を設定したりする中で、よさを認め伸ばす指導に誠意をもって取り組む。</p> <p>② 互いの考えや思いを尊重し、相互に共有し、高め合える学級づくりに努める。</p> <p>③ 縦割り班による清掃や遊び、兄弟学年による活動などを通して、協働する心と互いに他を思いやる心を育む。</p>                                                                              | <p>【達成状況】<br/>児童の肯定的回答率 90.9%<br/>数値指標を 10.9 ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】<br/>自己肯定感を高めるために<br/>・今後も、一人一人に応じた支援を行ったり、活躍の場を設定したりする中で、よさを認め伸ばす指導に誠意をもって取り組む。<br/>・学年主任を中心に、互いの考えや思いを尊重し、相互に共有し、高め合える学級づくりに努める。<br/>・縦割り班による活動（清掃、とよりんピックなどの行事）、兄弟学年による活動などを通して、協働する心と互いに他を思いやる心を育む。</p>                                                |
| 2-(1)<br>グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進 | <p>A 6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。</p> <p>【数値指標】<br/>全体アンケート肯定的割合<br/>⇒児童 85%以上</p>              | <p>① 外国語や外国語活動の授業を通して、英語を使ってコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。</p> <p>② 学校生活のあらゆる場面で外国語担当教諭や A L T を活用し、生きた英語に触れる機会の充実を図る。</p>                                                                                                                                 | <p>【達成状況】<br/>児童の肯定的回答率 87.4%<br/>数値指標を 2.4 ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】<br/>・帝京大の留学生との交流活動を継続し、児童が積極的に英語でやり取りできるように支援する。また、外国語活動、外国語科の充実を図り、児童が英語を話してみたいと思えるような授業を展開する。また、A L T を活用し、授業以外でも英語でやり取りできるように支援する。</p>                                                                                                                  |

|                                                            |                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                                                            |
|------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                            | <p>A7 児童は、宇都宮の良さを知っている。</p> <p>【数値指標】<br/>全体アンケート肯定的割合<br/>⇒児童 80%以上</p>                       | <p>① 生活科や社会科、総合的な学習の時間（宇都宮学）等で、身近な地域のよさを踏まえ、市全体の特徴を捉えられるよう学習活動を工夫していく。</p> <p>② 宇都宮の歴史や伝統文化、産業や特産物などについて理解し、郷土への愛情と誇りをもてるよう指導する。</p>                                                                                                  | <p>B</p> <p>【達成状況】<br/>児童の肯定的回答率 87.6%<br/>数値指標を7.6ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】<br/>・今後も「宇都宮学」の学習を通して、知識理解を深め、郷土への愛情や誇りをもてる指導を継続して行う。</p>                                                                                                                     |
| 2-（2）<br>情報社会と<br>科学技術の<br>進展に対応<br>した教育の<br>推進            | <p>A8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。</p> <p>【数値指標】<br/>全体アンケート肯定的割合<br/>⇒児童 85%以上</p>               | <p>① 各教科、領域において、パソコンやインターネット等を効果的に活用した授業を継続的に実施したり、授業研究会を通し、教職員の指導力向上を図ったりする。</p> <p>② 担任と図書館司書が連携して学習に必要な本や新聞などの資料を用意したり、調べ学習の場を工夫したりして、児童の学びを深める。</p> <p>③ 各教科や総合的な学習の時間（わたしたちの生活とコンピュータ）等で、プログラミング教育の推進を図り、児童のプログラミング的思考を育成する。</p> | <p>B</p> <p>【達成状況】<br/>児童の肯定的回答率 87.9%<br/>数値指標を2.9ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】<br/>・来年度もICT機器活用についての校内研修や学年研修を充実させ、教師の指導力向上を図る。<br/>・1人1台端末をはじめとするICT機器の積極的な活用により、情報活用能力の育成を図る。<br/>・授業をはじめ様々な場面で、新聞や図書資料を気軽に活用できる環境の充実を図る。<br/>・各教科等でプログラミング的思考の育成を図る。</p>  |
| 2-（3）<br>持続可能な<br>社会の実現<br>に向けた担<br>い手を育む<br>教育の推進         | <p>A9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。</p> <p>【数値指標】<br/>全体アンケート肯定的割合<br/>⇒児童 85%以上</p>             | <p>① 自然に対する関心を高め、自然とのふれあい体験を重視するとともに、環境に対する問題意識をもたせ、問題解決に取り組む実践的な態度を育成する。</p> <p>② 総合的な学習の時間等を活用し、環境問題や国際理解、防災などのテーマを通して地域や世界の学習素材を生かしながら、教科の枠を超えた横断的、総合的なカリキュラムの開発・実践を行う。</p>                                                        | <p>B</p> <p>【達成状況】<br/>児童の肯定的回答率 89.5%<br/>数値指標を4.5ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】<br/>・持続可能な社会について総合的な学習の時間や教科学習の中で意識づけを図る。また、教科学習で得た知識を横断的な学習や実生活に生かせるような場の設定を行うことで、特に環境問題や防災に対する意識を高めていく。</p>                                                                 |
| 3-（1）<br>インクルー<br>シブ教育シ<br>ステムの充<br>実に向けた<br>特別支援教<br>育の推進 | <p>A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】<br/>全体アンケート肯定的割合<br/>⇒教職員 90%以上</p> | <p>① 「ケース会議」や「校内支援委員会」を通して教職員間の情報共有を図るとともに、学級間の情報交換を密にして広く児童理解に努め、組織的に児童の支援に当たる。</p> <p>② 「定期教育相談（6・11月）」の充実を図り、児童一人一人のニーズや悩みを把握し、保護者や関係機関との連携を密に行いながら、個に応じた支援を展開する。</p>                                                              | <p>B</p> <p>【達成状況】<br/>教職員の肯定的回答率 100%<br/>数値指標を10ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】<br/>・校内支援委員会の有効活用や、特別支援コーディネーターからの様々な情報提供により、支援を必要とする児童への対応力を向上させる。<br/>・担任及びかがやきルーム指導員、保護者が互いに共通理解を深めたり、関連機関と連携したりしながら、より一層、支援体制を高めていく。</p>                                   |
| 3-（2）<br>いじめ・不<br>登校対策の<br>充実                              | <p>A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】<br/>全体アンケート肯定的割合<br/>⇒児童 90%以上</p>          | <p>① 教育活動全体を通して、児童に「いじめは決して許されない」ことを指導する。</p> <p>② 「いじめゼロ強調月間」（5月・10月）を設けて、いじめ根絶に努めるとともに、互いに認め合う心を育てる。</p> <p>③ Q-Uやアンケートをもとに教育相談を実施し、児童の悩みを適切にとらえて指導にあたる。</p> <p>④ 家庭や地域との連携を深め、児童の実態把握に努める。</p>                                     | <p>B</p> <p>【達成状況】<br/>児童の肯定的回答率 98.2%<br/>数値指標を8.2ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】<br/>・全教職員共通理解の下、いじめの未然防止・早期発見に努め、万が一いじめが発生した時には当事者達が納得するまで根気強くチームで対応する。<br/>・道徳科や学級活動などで、いじめや生命尊重、自他との関係を題材とした授業を行い、望ましい集団作りを心掛ける。<br/>・児童が主体となっていじめが絶対にいけないと思える機会を作っていく。</p> |

|                                                                                            |                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                            |
|--------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                                                            | <p>A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】<br/>全体アンケート肯定的割合<br/>⇒児童 90%以上</p>              | <p>① 児童一人一人が存在感をもち、自己実現の喜びを実感できる学級経営を実践する。</p> <p>② 日常の児童観察、Q-U、アンケート、教育相談等を活用し、職員間の情報交換・共有、保護者との連携を図り、不登校の未然防止に努める。</p> <p>③ 不登校の兆候が見られた際は、保護者はもとより、SCMのサポートやSC、市の子ども家庭支援室、いきいきグループ等の関係機関との連携を密に行いながら、個に応じた支援を展開する。</p> | <p>【達成状況】<br/>児童の肯定的回答率 97.8%<br/>数値指標を 7.8 ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】<br/>・学年会の他、日常において不登校の兆候等児童に関する情報の共有化を進め、不登校対応担当教員を中心とした情報交換会を通して全職員が関わっていく。<br/>・不登校対策に関する教育センターの資料を有効に活用して、未然防止対応に努める。<br/>・不登校傾向児童の居場所づくりに努める。</p> |
| <p>3- (3)<br/>外国人児童生徒等への<br/>適応支援の<br/>充実</p> <p>3- (4)<br/>多様な教育的<br/>ニーズへの<br/>対応の強化</p> | <p>A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るいきいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】<br/>全体アンケート肯定的割合<br/>⇒児童 85%以上</p> | <p>① 児童の様子の変化を見逃さず、一人一人の状況に応じた対応・支援に努める。</p> <p>② 悩みや困難を抱える児童が安心してSOSを発信し、悩みを相談しやすい校内の雰囲気づくり、環境づくりに努める。</p> <p>③ 地域の教育力なども活用しながら、児童の主体的な活動を推進し、児童が学校生活全体を通して、成就感や達成感を味わうことができるようにする。</p>                                 | <p>【達成状況】<br/>児童の肯定的回答率 97.5%<br/>数値指標を 12.5 ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】<br/>・次年度も継続して、よさを認め伸ばす指導支援を行う。そして児童の主体的な活動を推進し、成就感や達成感を味わえるようにする。</p>                                                                               |
| <p>4- (1)<br/>教職員の資質・能力の<br/>向上</p>                                                        | <p>A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】<br/>全体アンケート肯定的割合<br/>⇒児童 90%以上</p>  | <p>① 授業のねらいを明確にし、まとめや振り返り活動を適宜設けることで、育むべき資質・能力を明確にした学習活動を行い、学力向上に努める。</p> <p>② <u>学習指導法の工夫・改善（ICT活用・少人数指導・習熟度やTT学習・かがやきルームの活用等）を図り、「分かる・できる・楽しい授業」を推進する。</u></p> <p>③ 思考力・表現力を育てるために、各教科での指導の在り方について研修を深める。</p>          | <p>【達成状況】<br/>児童の肯定的回答率 98.2%<br/>数値指標を 8.2 ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】<br/>・今後も、ICT機器を効果的に活用し、児童が自分の考えを表現し、学び合える授業展開を工夫していくとともに、まとめ・振り返りを充実させていくことで学力向上に努める。</p>                                                            |
| <p>4- (2)<br/>チーム力の<br/>向上</p>                                                             | <p>A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】<br/>全体アンケート肯定的割合<br/>⇒教職員 90%以上</p>    | <p>① 学校運営の方向性を明確にし、学校運営上の諸事項について、会議や打ち合わせを通して、全職員の共通理解を図り、全校体制で校務の遂行にあたる。</p> <p>② 日頃より良好な人間関係づくりに努めるとともに、教職員一人一人の能力、得意分野を生かした組織作りに努め、やりがいをもって仕事ができるような環境を整える。</p>                                                       | <p>【達成状況】<br/>教職員の肯定的回答率 100%<br/>数値指標を 10 ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】<br/>・校長のリーダーシップのもとにまとめ、各々がもつ専門性で互いにフォローしていくことにより、より一層のチーム力を発揮していく。</p>                                                                                |
| <p>4- (3)<br/>学校における<br/>働き方改革の<br/>推進</p>                                                 | <p>A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】<br/>全体アンケート肯定的割合<br/>⇒教職員 90%以上</p>            | <p>① 「働き方改革」を教職員一人一人が意識しながら日々の業務の内容や処理の仕方を精査し、業務の効率化を図っていく。</p> <p>② 学校スタッフの職務と勤務について共通理解を図り、学校の課題への対応や業務の効率的な実施が行われるよう、教職員の協働体制を構築する。</p> <p>③ 日課を工夫することで生まれる放課後の時間を有効に活用して、教材研究や校務にあたり、学校教育の充実に繋げていく。</p>              | <p>【達成状況】<br/>教職員の肯定的回答率 97.6%<br/>数値指標を 7.6 ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】<br/>・組織的かつ効率的な働き方を意識し、デジタルツールを活用した業務改善を図るとともに、大きな業務も主務者を中心とした確固たる協力体制のもとに推進していく。</p>                                                                |

|                               |                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                      |
|-------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 5- (1)<br>全市的な学校運営・教育活動の充実    | <b>A17</b> 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。<br><br><b>【数値指標】</b><br>全体アンケート肯定的割合<br>⇒保護者 80%以上                           | ① <u>あいさつ運動等の交流活動や保健指導、給食指導、図書館教育などにおいて、小中学校間の連携を深めるとともに、児童の中学校入学への不安等の解消を図る。</u><br>② <u>学力向上、心の教育、健康・体力向上等について小中教職員が協働して系統的な指導を推進できるよう組織、体制を工夫していく。</u><br>③ 小中連携の具体的な取組内容を、学校だよりやホームページ等で保護者にわかるよう発信していく。 | B<br><br><b>【達成状況】</b><br>保護者の肯定的回答率 71.5%<br>数値指標を 8.5 ポイント上回った。<br><br><b>【次年度の方針】</b><br>・感染症対策で縮小していた小中の交流を見直し、再始動できるものは積極的に取り組んでいく。また、保健指導・挨拶・食育・読書活動などで取り組んできた活動を継続し、活動の様子を保護者や地域に発信していく。                                                      |
| 5- (2)<br>主体性と独自性を生かした学校経営の推進 | <b>A18</b> 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。<br><br><b>【数値指標】</b><br>全体アンケート肯定的割合<br>⇒保護者 85%以上              | ① 地域協議会や総合指導員との連携・協力を図り、地域人材等を有効活用した学習活動の展開を推進する。<br>② 地域の民間企業や公共施設と連携した体験学習や専門家を活用した授業を年間計画に位置付けて実施していく。                                                                                                    | B<br><br><b>【達成状況】</b><br>保護者の肯定的回答率 87.4%<br>数値指標を 2.4 ポイント上回った。<br><br><b>【次年度の方針】</b><br>・改訂した各教科年間指導計画に、家庭や地域と連携した校外学習、出前授業、学習支援等の内容を明記しておく、いつでも活用できるようにしておく。                                                                                    |
| 5- (3)<br>地域と連携・協働した学校づくりの推進  |                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 6- (1)<br>安全で快適な学校施設整備の推進     | <b>A19</b> 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。<br><br><b>【数値指標】</b><br>全体アンケート肯定的割合<br>⇒保護者 85%以上                          | ① 毎月の安全点検を確実にに行い、学校業務職員や機動班と連携して、危険箇所等の迅速な修繕と改善を行う。<br>② 来校者、保護者の自家用車乗り入れについてルールの周知を図るとともに、不審者侵入防止等の具体的な安全対策を実施する。<br>③ 学校デジタル連絡ツール「さくら連絡網」や学校ホームページ等を有効に活用し、児童の安全に係る情報を的確に発信する。                             | B<br><br><b>【達成状況】</b><br>保護者の肯定的回答率 89.5%<br>数値指標を 4.5 ポイント上回った。<br><br><b>【次年度の方針】</b><br>・毎月の安全点検を確実にに行い、危険箇所等については、迅速な修繕・改善を行う。<br>・来校者、保護者の自家用車乗り入れ制限の周知や、学校開放等の行事での見回りの協力依頼など、地域・PTA・緑下会と連携・協力を図る。<br>・さくら連絡網等を活用し、児童の安全が最優先になるように連携・協力を呼び掛ける。 |
| 6- (2)<br>学校のデジタル化推進          | <b>A20</b> コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。<br><br><b>【数値指標】</b><br>全体アンケート肯定的割合<br>⇒教職員 85%以上 | ① 1人1台端末や校務システム等のデジタルを効果的に活用した授業改善や業務改善を、体系的・継続的に推進していく。<br>② 授業研究会や職員研修等を通して、1人1台端末等のデジタルを授業や校務に効果的に取り入れるために必要な教職員の情報活用能力の定着を図る。                                                                            | B<br><br><b>【達成状況】</b><br>教職員の肯定的回答率 97.6%<br>数値指標を 12.6 ポイント上回った。<br><br><b>【次年度の方針】</b><br>・これまでと同様に情報担当を中心に、研究授業のみならず日常の授業での活用事例を職員間で共有することを積み重ねて、個人・全体のスキルアップを図る。<br>・職員のスキルを生かし、児童へ還元する内容や方法を探る。                                                |
| 小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等        | <b>B1</b> 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。<br><br><b>【数値指標】</b><br>全体アンケート肯定的割合<br>⇒児童 90%以上                                    | ① 地域協議会や学校園などの地域ぐるみのあいさつ運動を展開するとともに、校内でも生活向上委員会を中心に「あいさつ運動」を実施したり、教職員が進んであいさつしたりすることにより、進んであいさつができるような雰囲気づくりに努める<br>② 道徳科や学級活動の時間に、あいさつや礼儀について取り上げ、その大切さに気付かせながら理解を深める。                                      | B<br><br><b>【達成状況】</b><br>児童の肯定的回答率 91.5%<br>数値指標を 1.5 ポイント上回った。<br><br><b>【次年度の方針】</b><br>・生活向上委員会を中心としたあいさつ運動や放送、小中合同あいさつ運動を継続して実施していく。<br>・道徳科や学級活動などで、あいさつを題材とした授業を行い、あいさつの大切さに気付かせ、理解を深められるようにする。                                               |

|  |                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                                                      |
|--|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  | <p><b>B2</b> 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。</p> <p>【数値指標】<br/>全体アンケート肯定的割合<br/>⇒児童 85%以上</p>                                   | <p>① 「みんなのやくそく」の項目を生活目標に反映させ、朝の会等で確認し合うなど意識付けすることにより、基本的な生活習慣の定着を図る。</p> <p>② 児童一人一人のきまりやマナーに対する意識を高めるため、「みんなのやくそく」の推進を図る。また、教職員間で共通理解を図る。</p> <p>③ 道徳や学級活動などで、基本的な生活習慣に係る授業を計画的に実施する。</p>                                                                                            | <p>【達成状況】<br/>児童の肯定的回答率 94.5%<br/>昨年度を4.8ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】<br/>・今後も継続し、きまりを守ることや、マナーを意識させていくための指導の工夫改善を全職員で取り組んでいく。</p>                                                                                      |
|  | <p><b>B3</b> 児童は、宿題など、家庭での学習を忘れずにやっている。</p> <p>【数値指標】<br/>全体アンケート肯定的割合<br/>⇒児童 85%以上</p>                                 | <p>① 宿題や自主学習についての基本的な考え方（内容や量）について教員間で共通理解を図るとともに、児童には学習ガイダンスの充実や授業時間における学習指導等を通して、<u>基本的な学習習慣や学習規律の確立を図る。</u></p> <p>② 学習時間の目安や学習するときの約束事について、年度当初に家庭に知らせるとともに、学級懇談で家庭学習についての情報交換を行うなどして、家庭と協力体制が取れるようにする。</p> <p>③ <u>テレビやゲームの時間について、様々な機会に家庭に通知するなどして、学校と保護者が共通理解のもと指導を行う。</u></p> | <p>【達成状況】<br/>児童の肯定的回答率 91.5%<br/>数値指標を6.5ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】<br/>・今後も、児童が主体的に学習に取り組めるように具体的な内容や方法を示したり、手本となる取り組みを伝えたりしていき、家庭学習の過程や成果を称賛しながら意欲を高めていく。また、その様子を保護者にも伝える。</p>                                     |
|  | <p><b>B4</b> 児童は、休み時間や放課後などに、進んで運動をしている。</p> <p>【数値指標】<br/>全体アンケート肯定的割合<br/>⇒児童 80%以上</p>                                | <p>① 業間や昼休みを通して外遊びや学級の共遊を推奨するなどし、運動の習慣化を図る。</p> <p>② 体育の始業時に「豊央サーキット（補強運動）」を全校体制で取り組む。</p> <p>② <u>各種検定（縄跳び）を設定することで、児童一人一人が目標をもって運動できるようにする。</u></p>                                                                                                                                 | <p>【達成状況】<br/>児童の肯定的回答率 81.5%<br/>数値指標を1.5ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】<br/>・業間や昼休みを通して外遊びや学級の共遊を推奨するなどし、運動の習慣化を図る。<br/>・体育部を中心に、体育の授業づくりの提案をしていく。<br/>・本校の日課は、放課後の時間が取りやすい日課であるので、放課後遊びの奨励をしていく。（帰宅時間を守ることを前提として。）</p>  |
|  | <p><b>B5</b> 児童は、「自分たちが学級・学校をつくる」という意識をもって、係活動や児童会活動、学校行事等に、主体的に参加している。</p> <p>【数値指標】<br/>全体アンケート肯定的割合<br/>⇒児童 85%以上</p> | <p>① 「自分たちが学級・学校をつくる」をテーマに、児童会や委員会活動、学級の係活動などの場で、児童の主体性や創造性、協働性を育む。</p> <p>② 学校行事や縦割り班活動、縦割り清掃等を通じた異学年交流により、リーダーシップとフォロワーシップ、互いに他を思いやる心などを育む。</p>                                                                                                                                     | <p>【達成状況】<br/>児童の肯定的回答率 100%<br/>数値指標を15ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】<br/>・児童会活動や学級活動における児童の主体的な活動を更に工夫し、充実させることにより、一人一人の自己有用感を高めていく。<br/>・自分がもつよさを自覚できるように支援し、それを学級やその他学校内での集団の中で生かしていけるように働き掛けていくことで、各々の可能性を広げていく。</p> |

|  |                                                                                                           |                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                       |
|--|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  | <p><b>B6</b> 教職員は、主体的に授業に取り組み、同僚性を育みながら、指導法の工夫改善に努めている。</p> <p>【数値指標】<br/>全体アンケート肯定的割合<br/>⇒教職員 90%以上</p> | <p>① 学校課題に基づいて、研究のねらいを明確にしながら互いの授業を参観し合い、指導法について意見を交わすことによって授業改善に取り組む。</p> <p>② 高い自己研鑽意識に基づく主体的な自己研修と洗練された同僚性に基づく協働的なグループ研修の融合を図り、互いに学び合う職場づくりを推進する。</p> | <p><b>【達成状況】</b><br/>教職員の肯定的回答率 100%<br/>数値指標を 10 ポイント上回った。</p> <p><b>【次年度の方針】</b><br/>・個人研究を学年や教科部会等で互いに検討し合うことによって、互いのスキルアップを図る。<br/>・互いの授業を見合うことで、日常的に学び合う雰囲気を醸成していく。<br/>・各々が開発した教材を紹介・提供し合うことにより、指導の幅を広げていく。</p> |
|--|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

## 【総合的な評価】

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

令和5年度「うつのみや学校マネジメントシステム」全体アンケートでは、肯定的回答（「とても思う」と「まあ思う」を合わせたもの）の割合が数値指標を達成した項目は、26項目中25項目であった。その内、5ポイント以上高い項目が17項目あった。一方で、A17「学校は、『小中一貫・地域学校園』の取組を行っている。（保護者）」の質問において、肯定的回答割合が数値指標を8.5ポイント下回ってはいるが、令和3年度は63.8%、令和4年度は70.8%、令和5年度は71.5%と推移しており、令和3年度からは7.7ポイント増加している。今後は、地域学校園協議会や学校園運営会議、部会、分科会、学校園挨拶運動、一人配置教職員による連携等を推進するとともに、保護者へ向けての周知を図っていく。

令和4年度と令和5年度の全体アンケートにおける肯定的回答割合を比較してみると、A3「児童生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。（保護者）」、A7「児童生徒は、宇都宮の良さを知っている。（保護者）」、A11「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。（保護者）」、A12「教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。（保護者）」、A14「教職員は、分かる授業や児童生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。（保護者）」の質問で、5ポイント以上の増加が見られた。保護者が教職員を評価する内容が多く含まれており、学校教育への理解と信頼が増している表れと考える。また、例年肯定的回答割合が低かったA7「児童生徒は、宇都宮の良さを知っている。（保護者）」の質問で、5ポイント以上の増加が見られたことは、大きな変化である。各教科や総合的な学習の時間等で扱う「宇都宮学」を通して、宇都宮のよさに触れ、知識理解を深められてきたためと推察される。引き続き、郷土についての学習も進めていくことで、郷土への愛情や誇りをもてるようにしていく。

令和5年度全体アンケートにおける豊郷中央小学校と宇都宮市全体の肯定的回答割合を比較してみると、A1「児童生徒は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。（教職員）」、A3「児童生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。（教職員）」、A5「児童生徒は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。（教職員）」、A6「児童生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。（児童・教職員）」、A11「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。（地域住民）」、A13「学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。（保護者）」、A14「教職員は、分かる授業や児童生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。（保護者）」、A15「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。（教職員）」、A16「勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。（教職員）」、A17「学校は、『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている。（児童・地域住民）」の質問で、5ポイント以上上回った。特に、児童の成長と業務改善の内容に係る教職員の肯定的回答割合が宇都宮市全体と比べて高くなっている。

A1「児童生徒は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。」及びA14「教職員は、分かる授業や児童生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。」の質問で、児童・教職員・保護者の全てにおいて肯定的回答割合が90%を超えており、高い評価を得ることができた。これは、日頃から教職員が「個別最適学」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組んできた成果と考える。今後とも、黒板やノートを使った従来の学習形態に加えて、ICT等の先端技術を効果的に取り入れるなどして、児童の学力の向上に努めていく。

A11「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。（児童 98.2%、保護者 82.2%）」、A12「教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。（児童 97.8%、保護者 94.4%）」A13「学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。（児童 97.5%、保護者 93.6%）」など、児童指導や学級経営に係る児童と保護者の肯定的回答割合が高くなっている。日頃から、いじめ・不登校の兆候等児童に関する情報の共有化や事案発生時の組織的な対応に努め、児童一人一人に寄り添った支援を組織的に行ってきた成果と考える。今後もしじめ防止基本方針を全職員が共通理解したうえで、全校体制でいじめ根絶に取り組むとともに、学びに向かう集団の育成に取り組み、互いに認め合う安心感のある学級を目指していく。それを基盤として、規範意識の醸成、いじめを許さない態度の育成、不登校対策の取組の充実に確実に取り組んでいく。

A18「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。（児童 93%、教職員 100%、保護者 87.4%、地域住民 100%）」、及びB5「児童は、『自分たちが学級・学校をつくる』という意識をもって、係活動や児童会活動、学校行事等に、主体的に参加している。（児童 92.3%、教職員 100%）」について、高い肯定的回答割合を示している。新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴い、地域の幼稚園や中学校、高校、大学、特別支援学校との交流活動や、地域人材や自然を生かした体験活動、地域協議会における教育活動等を、コロナ・リカバリープランを意識しながら見直し、充実を図ることができた成果と考える。

B1「児童は時と場に応じたあいさつをしている。」の肯定的回答割合が、児童・教職員・地域住民において昨年度より下回るとともに、児童や地域住民においては宇都宮市全体よりも下回っている。「えがお なかよし あいさつの花を 咲かせよう!」を合言葉に、普段から教職員・保護者・地域・児童が一体となって、気持ちのよい挨拶を心掛ける環境づくりに努めてきたが、結果が伴わなかった。今後は、引き続き、卒業生が小学校に来て行う「小中あいさつ運動」や「宇都宮ブレックス」のマスコット「ブレッキー」を招待して地域協議会のあいさつ運動、標語看板の設置を行うことにより、児童の意識の高揚を図っていく。

## 7 学校関係者評価

新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴い、学校生活がコロナ禍前の生き生きとした様子を取り戻しつつあることをうれしく思う。全体的には、児童、保護者、教職員が多くの項目において高評価しており、21世紀を担う立派な人間が育っているものと思われる。学校職員の熱心な取組もあり、児童との良好な関係がアンケートからもうかがうことができる。

多くの評価項目で、児童・教職員・保護者・地域住民の肯定的評価割合が令和4年度と比較し向上していることが素晴らしい。市全体と比較しても多くの項目で肯定的回答割合が高く、特に教職員の数値が高いことに、安心感を覚える。一方で、地域住民としては、児童との触れ合いが少なくなっており児童の本当の姿が見えづらくなっていることが、少し気がかりである。

多くの評価項目において数値指標を上回っており素晴らしい結果だと思う。全体的に保護者の評価が厳しめではあるが、その中で昨年度と比べて、いじめ対策、不登校対策、学力向上対策の伸びが目立っている。学校の様々な取組が認知されてきていることの表れだと思う。今後も引き続き継続していただきたい。

教職員については、児童の生き方や姿勢について前向きな回答が多く、保護者については全体的に概ね良好な回答が多い一方で、設問の内容がよく分からないものについてはネガティブな反応が多いように感じられる。アンケートの回答者は、児童、教職員、保護者、地域住民の4者であるが、それぞれの立場に即した分かりやすい設問内容にした方が、リアリティのある評価につながると思う。

教職員と地域住民の肯定的回答割合が高いことは、とても素晴らしいことである。児童一人一人を我が子のように想い、学校と保護者、地域が一つとなって子供たちを育てていこうとする愛情あふれた素晴らしい環境があることをとても誇らしく感じる。

A1「児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。」等、児童に関する評価項目について、教職員の肯定的回答割合が100%のものが多く、日々の学校運営が円滑に行われていることの表れと感じる。創立150周年記念式典の際の児童の様子も、非常に素直で伸び伸びとしており、教職員との関係が良好であることが分かる。

A3「児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」の保護者の肯定的回答割合が、令和4年度の79.1%から令和5年度の84.4%に約5ポイント上昇している。これも学校及び教職員の普段からの指導の成果であり、保護者として大変うれしく感じる。

A3「児童生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」やA6「児童生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。」など、教職員と児童の感じ方に違いが見られる。

A7「児童は、宇都宮の良さを知っている。」では、保護者の肯定的割合が令和4年度より向上しているが、児童や教職員と比べると15ポイント程度低く、保護者と児童・教職員の間に感覚的な乖離があるように感じる。宇都宮学の成果をもっとアピールするような施策（授業参観や配布物・配信等）に重点的に取り組む必要性を感じる。

A10「教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」では、教職員の肯定的回答割合が100%となっているが、今以上に人手が必要な状況と推察する。地域で手伝えることがあれば地域を巻き込んで、みんなで、宝物である子供たちを守っていきたい。

A16「勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」の教職員の肯定的回答割合が97.6%と高い結果となっている。日々改善に取り組んでいる姿勢が素晴らしい。

A17「学校は、『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている。」では、保護者の肯定的回答割合が71.5%で数値指標より8.5ポイント低い結果となっており、児童・教職員のイメージする「小中一貫教育・地域学校園」と保護者のそれとはずれがあるように感じる（20ポイントも差がある）。保護者のイメージは「中高一貫教育」のようなものを差している可能性があり、「小中一貫教育・地域学校園」の仕組みや役割を伝えきれていないのかもしれない。

A17「学校は、『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている。」については、市全体の肯定的回答割合が81.4%のところ、保護者の肯定的回答割合が71.5%となっており10ポイント低い結果となっている。地域内の小中学校との連携を今まで以上に図るなど何らかの対策が求められるところではあるが、昨今の教職員に係る勤務超過も聞こえてきており、持続可能な変革が期待される。

A17「学校は、『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている。」について、保護者の肯定的評価が市全体のそれよりも低いことが意外であった。立地的に豊郷中学校に近い豊央小なので、小学校から中学校へのつながりが保護者にも見えやすいのではないかと考えていた。設問自体が分かりにくいところもあるので、丁寧な説明や取組の周知が必要と思われる。

B4「児童は、休み時間や放課後などに、進んで運動している。」の回答にもあるように、進んで運動している子供が少なくなっているように感じる。学校全体としての取組を期待したい。

## 8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

「かしこく なかよく たくましく」を合言葉に、確かな学力の向上、豊かな心の育成、健やかな体の育成を目指し、全教職員の共通理解のもと、教育活動の見直しと改善を図る。

新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後の教育活動を、コロナ・リカバリープランを意識しながら見直しを行い、一層の充実を図る。次年度は本校の歴史と伝統を踏まえ、「コロナ禍のため縮小や中止となった教育活動を、どのように工夫すれば無理なく行うことができるか。」を模索し、安全・安心に十分に配慮しながら児童の活動の場を積極的に確保していく。

児童や保護者、地域から愛される「開かれた学校づくり」に努めるとともに、地域の人々や地域の歴史、自然環境など地域の教育力を積極的に活用して、とよおう水田での自然体験活動や学区の大学、高校、中学、幼稚園等との交流活動など、地域に根ざした「特色ある教育活動」の一層の充実を図っていく。

地域学校園の小中学校の交流活動や教員の研修における交流等を通して、義務教育9年間を見据えた系統的・継続的な指導の充実に努める。特に、「体力向上」「保健教育」「食育」「安全教育」の4つの教育分野に、地域学校園の共通理解のもと見通しをもって取り組んでいく。

G I G Aスクール構想に基づいた授業づくりでは、1人1台端末を効果的に活用した「一斉指導による学び（一斉学習）」「子供たち一人一人の能力や特性に応じた学び（個別学習）」、「子供たち同士が教え合い学び合う協働的な学び（協働学習）」を推進する。また、それに必要な教職員や児童の情報活用能力の育成に全校体制で取り組んでいく。

日頃から児童同士が互いに認め合い励まし合うことのできる人間関係づくりに努めるとともに、全教職員が共通理解の下いじめや不登校の防止と早期発見に努め、いじめや不登校が発生した時には当事者の気持ちに寄り添って個別の支援を行ったり、迅速に関係機関と連携を図ったりしていく。

警察署や交番、教育ボランティア等と日常的に連携を図り、学校と関係機関、地域が一体となって、児童の健全な育成と安全・安心な環境の整備に努めていく。特に通学路の安全確保については、保護者及び見守りボランティアと連携するとともに、安全点検等を活用して、重点的に行っていく。

本校の学校運営の方針、教育活動の状況、学習指導、児童指導、健康・体力、本校の特色など、教育に係る情報を積極的に公表するとともに、地域や保護者からの声を学校運営に反映し改善を図りながら、学校と保護者、地域が協力・連携した教育活動の充実に努めていく。

学校評価において特に保護者の肯定的回答割合が低かったA7「児童は、宇都宮の良さを知っている。」、A17「学校は、『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている。」に関連して、取組の一層の充実を図るとともに、学級懇談会等で丁寧な説明を行ったり学校だよりや学校ホームページ等を通して情報を発信したりしていくことで、保護者への理解・啓発に努めていく。